

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100983		
法人名	有限会社サークル介護		
事業所名	グループホームぬくもりの家 (東棟)		
所在地	〒038-2811 青森県つがる市森田町上相野柁木19-4		
自己評価作成日	平成24年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の出来る事を見出し、入居者と職員が共に歩む事を大切に考え、「笑顔を絶やさず・思いやりの心で・共に歩む姿勢を持つ」の理念に近づけるように日々心がけています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>入居者に対する職員の言葉掛けや対応に優しさやぬくもりが感じられ、入居者一人ひとりが思い思いに過ごされ笑顔があり、アットホームな雰囲気である。避難訓練や夏祭り等の行事、小学校との交流を通じて地域との交流を図り、地域に根ざしたグループホームである。また、職員の資質向上のため積極的に内部研修を行ったり、職員全員が会議に参加し意見交換を行う等して、入居者の思いを大切にしたいケアをするという姿勢が感じられ、入居者・家族ともに安心できる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔を決やさず 思いやりの心で 共に歩む姿勢を持つ」を基本理念とし、また全職員で話し合い介護方針を作り実現に向け取り組んでいる。	理念と介護方針を玄関やホールに掲示し、日常的に意識しながらサービスに取り組んでいる。介護方針は全職員で話し合い作り上げたもので、地域での生活を意識したものとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練には、地域の方々に参加して頂き、その際施設内を見学してもらい、入居者との交流を図っている。	町内会に入り、避難訓練や夏祭りなどの行事を通して地域の方々と積極的に交流を図っている。その他、地域の方から野菜をもらったり、近隣の小学校の職業見学も受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域中学校の職場体験、高校からのインターシップの受入依頼があり受入している。その際は利用者のプライバシー保護の為守秘義務の説明をしている。入居者の居室の見学はしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しホーム内行事には参加して頂き、食事を一緒にとり意見を出してもらっている。また、外部評価の実施結果報告もしている。	入居者、家族代表、市の担当者、民生委員、ケアプランセンター職員などが参加し、2ヶ月に1回会議を開催している。食事をしながら、行事や外部評価の結果報告や空き情報等を話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市役所介護課職員に参加して頂き、自己評価、外部評価等を報告している。また、介護課、社協には地域広報誌を配布し設置をして頂いている。	社会福祉協議会に広報誌を設置してもらう他にも、わからないことがあればその都度市の窓口を訪問したり電話をして、日頃から協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成し、また施設内研修を行っている。止むを得ず身体拘束を行う場合についても重要事項説明書にて説明しているが、身体拘束を行った事例はない。また夜間以外の玄関の施錠はせず、帰宅願望がある入居者へは外へ出る事を無理に止めず 職員が付き添っている。	身体拘束のマニュアルを作成し、職員の目に届くところに常時置かれている。また、入社時には職員に個別にマニュアルを配布している。内部研修でも毎年身体拘束について取り上げ、身体拘束への理解を深めている。実際に身体拘束をしたことはないが、やむを得ない場合に備え同意書も作成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルがあり、施設内研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修について、職員全体で制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、重要事項説明書を用いて理念、ケアの方針の説明を行っている。また契約内容の改訂があった場合は、その都度説明している。退居の際は事前に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の際、重要事項説明書に記載されている苦情受付窓口の説明、意見箱を玄関に設置。また広報誌へ苦情窓口を記載している。入居料の支払い等は可能な限り家族が面会に来れるよう働きかけている。受診報告は面会時又は電話等で密に行っている。	意見箱の設置の他、普段の面会や会話等で意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。重要事項説明書と広報誌には、外部の苦情窓口に関しても記載している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月に1回 施設長を含めた系列のグループホーム合同の全体会議があり、意見交換している。グループホーム間での異動がある際は、事前に入居者に伝え混乱しないよう配慮している。	3ヶ月に1回、施設長を含めた系列全体会議を実施している。日頃から何でも言い合える信頼関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康診断は年1回実施している。就業規則があり、有給休暇、産休、育児休暇も取りやすい環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設置し、年間研修計画を立てている。また、外部研修後、伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に加入しており、協会主催の研修に参加し、学習と情報交換・交流を行っている。また、日々の向上や職員育成に繋げるために事業者同士協働で資質向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する際は、家族より聞き取りをし、本人と面談する等、直接話を聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する前や、入居時に家族の要望や不安などを聞き、ニーズの把握に努め、信頼関係が築けるように意識し対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズに対し、可能な限り、ホームで対応できるよう努めている。他のサービス利用希望が現在まで無い。対応できる事には柔軟に対応したい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて、おかずの盛付け、食材切り、畑仕事など職員と一緒にやり、日々の生活の中で入居者との関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最近の様子、受診の結果報告、不足品等を電話連絡をしている。また、入居時、家族よりセンター方式を記入して頂き、職員間で活用し共に支える関係作りを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿った支援ができるよう、理美容室や病院等、馴染みの人や場所へ出掛けられるよう 状況に応じて対応している。必要に応じて家族に協力を依頼している。	以前から利用していた理美容室や病院、馴染みの場所との関係が途切れないように、家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や人間関係を把握し、ソファ一席、食卓席の配置で配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて、相談や支援、他機関の紹介等を行っている。入居先とも連携をとり、サマリーで情報提供をする等してこれまでの暮らし方が継続できるよう働きかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日々の関わりや記録から、本人の思いや希望・意向の把握に努めている。また入居が決まった時点より、センター方式を用いてその人らしい暮らしや尊厳ある生活が送れるよう家族からも情報を収集し支援している。	入居が決まった時点から家族から情報収集し、また普段の関わりの中から入居者の思いを汲み取り、希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで過ごしてきた生活に出来るだけ近づけるよう、センター方式を用いて本人の状況や習慣・ケア方法等を全職員で意見交換し、家族・関係者から得た情報はアセスメントシートに記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシート等の活用にて個々の出来る事、心身状態の把握に努め、本人の変化に合わせ、日々の暮らしに活用できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の会話や行動、家族に関しては面会時や電話連絡の際に、要望や意見を記録に残し、全職員が把握できている。本人にとってよりよい生活の在り方を検討しカンファレンスをしたうえで介護計画を作成している。定期的及び変化が見られた場合は、随時見直しをしている。	3ヶ月に1回モニタリングを実施し、介護計画は本人、家族の意見を取り入れながら作成している。状態に変化が見られれば、その都度計画の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に暮らしの様子や身体状況について具体的にアセスメントシートに記録し、全職員が情報を共有できるようにしている。記録や情報・実践を基に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の送迎は事業所の車輛で行うと共に希望に合わせて買い物や外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方、地域住民の方には行事や避難訓練に参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医との関わりを優先している。緊急受診、定期受診時、内服変更等は家族へ電話連絡している。	かかりつけ医の診察を継続的に受けられるように支援している。通院後は、通院内容を電話にて家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録にて入居者の注意事項を把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院より家族へ病状説明の際同席させてもらい、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合どうするか、入居時 重要事項説明書にて家族へ説明している。	重度化については入居時に重要事項説明書を通して説明している。日頃から入居者の状態の変化を家族に報告し、重度化した場合は早い段階で本人・家族と話し合い、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は2年に1度、救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間・地震後の火災を想定した避難訓練を行っている。また、地域住民・消防署・消防団からの理解と協力が得られるよう働きかけている。災害時に備え食料品・水・防寒具を用意している。	夜間想定を含め年2回防災訓練を行っている。火災、地震に備えた訓練となっており、消防署や消防団の参加もある。また、連絡網も実際に使って訓練している。備蓄も用意しており、防災グッズもユニット毎にまとめて非常時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や個性に合った声掛けで対応するよう気を付けている。	一人ひとりの生活リズムに合わせて声がけをし、排泄の声がけも人前でしないようにして羞恥心に配慮されている。職員同士、お互いの声がけの仕方にも注意しあい、人格を尊重するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合った説明を行い、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している。また難聴者にはホワイトボードを使用しコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方として、ホームの日程はあるが、一人一人の気分・体調を優先とし、無理なく過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は出来る限り本人の希望によって行っている。また、散髪は行きつけの理美容院に行く事によって馴染みの方々と楽しく会話する繋がりが継続出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛付け、食後の後片付け、食器拭きなど入居者と職員で一緒に行っている。	入居者の得意な事や出来る事は手伝ってもらおうようにしている。入居者にとってもそれが生きがいとなっている。栄養士が作成した献立で栄養バランスにも気を配り、苦手なメニューには代替メニューを用意したりと配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表・水分チェック表により1日の摂取量を把握している。また、栄養士が献立を立て、栄養のバランスを図り、個々の状態に応じキザミ食など食事の工夫を行っている。水分は、本人の好みに応じ必要水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの実施。口腔状態を確認し、義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを調べ、利用者の方々にあった誘導や声掛けを行い、気持ちよく排泄出来るよう支援している。	個々の排泄パターンを記録し排泄のリズムをつかみ、羞恥心に配慮した声掛けをしている。現在オムツの使用者はおらず、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をはじめ、ラジオ体操や日常生活の中で身体を動かしてもらおう等、働きかけている。それでも便秘が見られる場合は医師と相談し、下剤を処方してもらい排便調整表を作成して活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ずつの入浴を基本としているが、時間・順番は本人に確認し、入浴を楽しめるよう支援している。	週2回入浴日を設け、入浴の時間帯は入居者の希望に合わせている。入浴のない日は清拭など清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のその日の出来事や体調を把握し、本人の状態に合わせて休息を取り入れられるよう支援している。眠れない入居者に対しては、本人の能力に応じて日中の活動を増やし、活性化するよう働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を、毎回受診時に個人ファイルに添付し薬の内容を把握するよう努めている。薬の変更時は連絡ノートに記入し、全職員間で情報を共有している。また、本人の状態を観察し、改善が見られない場合医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合った役割を見出し、無理をしない程度に軽作業を行ったり、毎月のホームの行事に参加したりレク活動に参加し、毎日の生活を楽しく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の気分転換に繋がるよう、外に出る機会を作り、出来る限り入居者の希望に沿えるよう支援している。また、その入居者に応じて定期的に外出できるよう家族にも協力を呼び掛けている。	入居者の希望に添って、家族の協力も得ながら、理美容院などの馴染みの場所や近所への散歩、外食の支援をしている。行事にも外出計画を盛りこみ、事業所に閉じこもりにならないよう配慮している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に合わせ、金銭管理をしてもらい、買い物の際には出来る限り本人が支払できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿えるよう支援している。また、電話の際は事務室で電話を掛けるなど配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りや掲示物を工夫している。ロールカーテンで光の調節をする等し、入居者が居心地よく過ごせる空間作りに配慮している。	共用空間は季節に合った装飾で、光や温度にも配慮されている。ホールや廊下にはソファをおいて、いつでも入居者がくつろげるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやテレビがあり、ソファを近づける事によって、入居者同士が会話しやすい空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に合わせて、使い慣れた物や家具・花等個々の好みに合わせた物を持ってきてもらっている。	本人の希望に合わせて、居室に収納できる家具であれば持ちこみ可能である。自宅で暮らしているような、入居者が安心できる環境作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせた家具・寝具の配置をしている。居室前には表札を設置している。また、リビング・廊下・居室・トイレ・浴槽には手すりが設定されている。		